

本教材の利用について

- 本教材は、平成28年度 特許庁産業財産権制度問題調査研究「デザインの創作活動の特性に応じた実践的な知的財産権制度の知識修得の在り方に関する調査研究」（請負先：国立大学法人大阪大学 知的財産センター）に基づき作成したものです。
- 本教材の著作権は、第三者に権利があることを表示している内容を除き、特許庁に帰属しています。また、本教材は、第三者に権利があることを表示している内容を除き、クリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。



- 本教材は、できる限り正確な情報の提供を期して作成したのですが、不正確な情報や古い情報を含んでいる可能性があります。本教材を利用したことにより損害・損失等を被る事態が生じたとしても、特許庁、国立大学法人大阪大学 知的財産センター及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

[本教材の利用に関するお問い合わせ先]
特許庁 審査第一部 意匠課 企画調査班
TEL : 03-3581-1101（内線2907）

パート7

事例に基づくディスカッション

「デザイナーが身につけておくべき知財の基本」

07-01 演習1

07-02 演習2

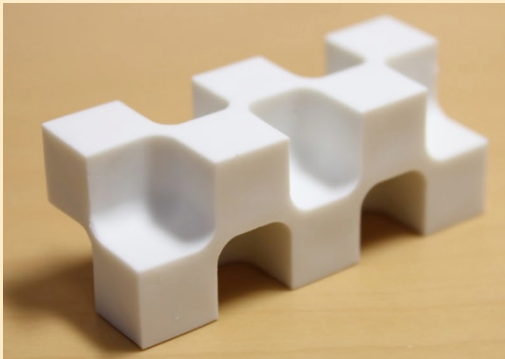
07-03 演習3

07-04 演習4

07-05 演習5

07-01 演習1

- 通常、消しゴムの角部は使用していくうちに磨耗し、最終的には角が取れて全表面が滑らかな連続した曲面となってしまう。このように全ての角が取れてしまうと、字消し作用を得るためにはより強い力が必要となるとともに、細かい部分を正確に消すことができにくくなる。そこで、以下のような形状の消しゴムを考えた。



資料：コクヨ株式会社



- 一人ひとりで考えた後、グループでディスカッションをしてみよう。
- 1. 特許出願をすると想定して、特許請求の範囲（クレーム）を書いてみよう。
権利行使をする際に、強い特許にするにはどのような工夫をしたらよいだろうか。
各自が書いた特許請求の範囲を比較してみよう。
- 2. 海外から粗悪な模倣品が輸入されていることを阻止するために、どのような手段が考えられるだろうか。

07-02 演習2

- 飲み物用容器のデザインを考えてみよう。



- 一人ひとりで考えた後、グループでディスカッションをしてみよう。
1. 普段使用している飲み物用容器について、不便だなと思う点、こうなっていると良いなと思う点などの課題を考えてみよう。
 2. 1.で考えた課題を解決するデザインを考えてみよう。
 3. 自分の考えたデザインについて、意匠登録出願と特許出願をすると想定する。
意匠登録出願のための図面と、特許出願のための特許請求の範囲（クレーム）を考えてみよう。
 4. グループで、お互いのデザインを紹介し合い、それぞれのデザインの優れている点、改善した方がよい点を検討しよう。

07-03 演習3

- ある夏の暑い日、デザイナーのAは、つけっぱなしの扇風機を何気なく眺めていた。「そういえば、扇風機って、昔からデザインが変わらないな」とつぶやきながら、ふと面白いデザインの扇風機を創作できないかと思った。エンジニアの友人Bに相談すると、今までにない扇風機を2人で創ろうと盛り上がり、早速デザインを考えることにした。同時に、斬新なデザインの家電の製造・販売で注目されているメーカーX社に勤務している知人Cに計画を話すと、良いものができたらぜひ商品として売り出そう、ということになった。
- ところが、いくつも試作品をつくってみたものの、なかなか納得のいくデザインにすることができずに途方に暮れていた。ある日、Aは、羽根を回転させることなく、空気の流れを誘導することで旋回流を発生させるサイクロン装置を見たとき、これを扇風機に応用できないかとひらめいた。そして、Aのアイデアを基にBが空気の流れをうまく誘導する形を設計し、さらにAはその装置の外形をスマートなデザインとすることで、従来になかった斬新なデザインの扇風機を創り出した。Cは、AとBのアイデアを製品として生産するための手助けをしてくれ、その後、X社から新商品として発売することが決まった。



- 一人ひとりで考えた後、グループでディスカッションをしてみよう。

1. X社が洗練されたデザインの扇風機を販売することになった。
AとBは苦労して創り出した製品なので、自分たちのアイデアを真似されないようにしたいと考えた。
知的財産権として保護するという観点から、どのような手段が考えられるだろうか。
開発プロセスにおけるどの段階で、どのような目的のため、どのような権利を取得したらよいだろうか。
2. AとBは、自分たちが考えたアイデアの取り扱いについてどのような注意をする必要があるだろうか。
3. X社が販売する扇風機のデザインの創作者は誰だろうか。

07-04 演習4

- X社の会議室において、フリーランスデザイナーのAが作成した設計図を用いてプレゼンしたところ、会議に同席していたX社のBが、その設計図を見て面白いアイデアだと思い、Aが出願する前に、自分が発明者であるとして特許庁に特許出願をした。その後、Aは、たまたまBの特許出願を聞いて、その内容が自分が考えているものとそっくりだと知った。Bは知的財産権についての知識があまりなく、単に気に入ったから知人に頼んで出願したとのことであった。



- 一人ひとりで考えた後、グループでディスカッションをしてみよう。
1. 自分のアイデアを盗用された証拠をつかんだAは、どのような対応を行うことができるだろうか。

07-05 演習5

- X市は、都心に近いことから住人が多いものの、最近高齢化が進み、ある団地ではお年寄りの一人暮らしの世帯率が非常に高くなってきている。X市の市長は、全国に先駆けて高齢者が住みやすい地域づくりに力を入れようと考え、若いデザイナーの力で未来に向けた街づくりを行うことを決めた。



- 一人ひとりで考えた後、グループでディスカッションをしてみよう。

1. あなたがデザイナーとして街づくりのためにX市に招聘されたと想定する。
将来に向けた街づくりにおいて何を課題として、その課題をどのように解決していくかを考えてみよう。
なお、知的財産権を活用することも考えること。